

## 第4回京都市都市緑化審議会 摘録

### 1 開催日時

平成27年7月10日(金) 午後2時～午後4時

### 2 開催場所

京都市役所 寺町第1会議室

### 3 出席者(敬称略)

委員11名(5名欠席)

会長 森本幸裕

副会長 榎村久子

委員 井田典子

委員 植野久子 (欠席)

委員 田中良明 (欠席)

委員 中嶋節子

委員 中村伸之

委員 西村良子 (欠席)

委員 松谷茂 (欠席)

委員 山内康敬

委員 吉野祐 (欠席)

### 4 次第

(1) 開会

(2) 委員自己紹介

(3) 会長,副会長選出

(4) 会長,副会長あいさつ

(5) 議題

第2次京(みやこ)のみどり推進プランの策定について

(6) 閉会

## 5 会議録

### (1) 会長，副会長選出

- ・第2期京都市都市緑化審議会会長 森本幸裕
- ・第2期京都市都市緑化審議会副会長 槇村久子

### (2) 議題

第2次京(みやこ)のみどり推進プランの策定について

#### 検討の視点1

第2次推進プランの位置づけ，在り方や方針について

#### 検討の視点2

推進体制について

施策融合に伴う関連事業の推進体制

#### 検討の視点3

評価指標について

市民が感じる豊かさ（満足度）の評価（緑の「質」を評価する手法）

以下，審議の内容を検討の視点ごとに御意見をまとめました。

#### 検討の視点1 に関する御意見

- ・建築物の高さ等には，その地域特性に応じた規定やルールがある。緑にも，その地域特性に応じた緑のガイドラインが必要ではないか。
- ・施策ベースのため，緑が増えているのかどうかかわからず実感がない。
- ・どのような緑をつくっていくか，まず具体的にイメージできる目標を立て，それをベースに施策を構築していく。
- ・設定されている施策を行った結果，何が見えてくるのかがわかりにくい。
- ・エリアごとに，目指す緑を具体的に決めるほうがわかりやすい。
- ・市民感覚に近づけるものが必要。（四季の移ろいを感じることができる等）

#### 検討の視点2 に関する御意見

- ・第2次京推進プランを進めていくにあたり，庁内連携（各区役所における施策との連携）を行う際は，みどり政策推進室が中心となり，他の部署・施策を巻き込んでいく，発言力を持っていくような進め方が重要である。
- ・第1推進プランで何が出来て，何が出来ていないのかを明確にし，またそれらの取組は何が不足しているのかというマトリックスを組み立てることができる。そして，そこからはみだす必要な取組を第2次推進プランに追加する施策となるのではないか。
- ・緑に対し，直接的に緑への効果が期待される「主たる緑施策」と間接的な効果を

期待する「従たる緑施策」がある。そのうえで施策の融合を考え、カテゴリーを再編すると良いのではないか。

- ・「重点エリア」をつくり、そのエリアでの施策のパッケージ化をつくり、次の第3次京推進プランに向けて、5年間でやりきるべき。
- ・基本方針に基づく具体的施策はどこが主として行っている施策なのか、どの部局と連携するのか、その整理をするとさらにわかりやすくなるのではないか。
- ・今の時点でこの施策ができていないのかの見直しよりも目指す緑が達成できているかどうか、現場ベースで施策を分類し見直していくことが必要

#### 検討の視点3 に関する意見

- ・緑化に関しては平面で考えるのではなく、視点場などを考えた人目線での緑化を行う考えが必要
- ・第1次推進プランにおける“緑の質”に関する目標等が具体的ではないため、わかりにくい。
- ・それぞれどのような効果や機能が期待されるのか、市民の心に響くような設定をする必要があるのではないか。例えば、「目標3 緑の連続性の確保」についてはアサギマダラが京都駅にも飛来した事など（他にも水の視点から考えるとハグロトンボ等がある）質的なアウトカム指標が必要
- ・わかりやすい指標が必要
- ・施策の満足度の計測については、場所をイメージさせると市民の方もわかりやすい。
- ・数値だけでない指標の多様化が必要

#### 事業の取り組み方について

- ・再開発等で現況が変わる場所（民有地でも）において、もっと強く緑化の推進を行うべき。
- ・京都駅など多くの人が目にする場所を決める等、重点的な場所を決め施策を行う事が必要